

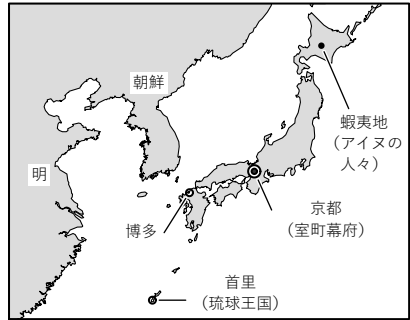
1 全体像	2・3 南北朝と室町幕府	4・5 東アジア	6・7 民衆	8・9 戦国大名	10・11 文化	12 まとめ
-------	--------------	----------	--------	----------	----------	--------

1 この単元の全体像 ― 鎌倉幕府のあと、社会はどう変わり、民衆はどのように力をつけた？

このページのゴール 鎌倉幕府の滅亡から戦国時代までの流れと、この単元で学ぶ6つのことを、ざっと言える

⑩前半の最後で、元寇のあと御家人の不満が高まり、鎌倉幕府がゆらいだことを学びました。この単元では、鎌倉幕府がほろび、京都に室町幕府ができ、やがて戦国時代になるまでを学びます。この間に、農民や商人など、民衆も力をつけていきました。鎌倉時代から室町時代（戦国時代をふくむ）までが中世で、この単元は中世の後半です。

1333年	1334年	1338年	1392年	1404年	1428年・1429年	1467年	このあと
鎌倉幕府がほろびる（2）	建武の新政（2）	尊氏が征夷大将軍に（3）	南北朝の統一（2）	日明貿易（4）	正長の土一揆（7） 琉球王国（5）	応仁の乱（8）	戦国時代（9）



地図：Natural Earth

- ① 鎌倉幕府の滅亡と南北朝
 かわしくは2ページ
 朝廷が二つに分かれたわけを学びます。
- ② 室町幕府と守護大名
 かわしくは3ページ
 新しい幕府のしくみと守護を学びます。
- ③ 東アジアとの交流
 かわしくは4・5ページ
 東アジアの国々との交流を学びます。
- ④ 産業と民衆の自治
 かわしくは6・7ページ
 農業・商業の発達と、民衆の自治を学びます。
- ⑤ 応仁の乱と戦国大名
 かわしくは8・9ページ
 応仁の乱と、戦国大名の登場を学びます。
- ⑥ 室町文化
 かわしくは10・11ページ
 金閣や銀閣など、この時代の文化を学びます。

この単元の問い 中世の日本で、民衆はなぜ力をもつようになった？（答えは12ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/)
<https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e5%ae%a4%e7%94%ba%e5%b9%95%e5%ba%9c%e3%81%a8%e5%bf%9c%e>

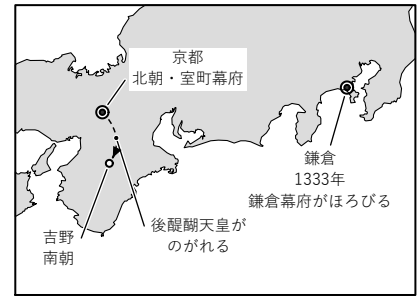
2 鎌倉幕府がほろびたあと、なぜ朝廷が2つに分かれた？

このページのゴール 鎌倉幕府の滅亡から南北朝の統一までの流れを年とともに言え、北朝と南朝の場所を言える。南北朝時代と室町時代が重なることを図で説明できる

① 鎌倉幕府の滅亡から南北朝へ

⑩前半の11ページで、元寇のあと御家人の不満が高まったことを学びました。その中で、天皇中心の政治を取りもどそうとしたのが、後醍醐天皇です。

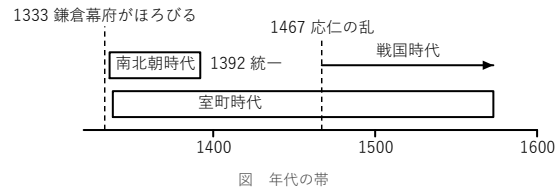
- ① 1333年、後醍醐天皇（ごだいごてんのう）が、足利尊氏（あしかがたかうじ）や楠木正成（くすのきまさしげ）らを味方にして、鎌倉幕府をほろぼす（尊氏は、もとは鎌倉幕府の有力な御家人）
- ② 1334年、天皇中心の政治（建武の新政）を始める → 公家（貴族）を重んじたため、武士の不満が高まり、2年ほどでくずれる
- ③ 尊氏が兵を挙げ、京都に新しい天皇を立てる（北朝）。後醍醐天皇は吉野（今の奈良県）にのがれる（南朝）
- ④ 2つの朝廷が全国の武士に味方をよびかけ、約60年間争う（南北朝時代）
- ⑤ 1392年、3代将軍足利義満（あしかがよしみつ）が、南朝と北朝を1つにまとめる（南北朝の統一）



地図：Natural Earth

建武の新政＝後醍醐天皇が始めた、天皇中心の政治

② 南北朝時代と室町時代の関係



南北朝時代は、次の3ページで学ぶ室町時代と別の時代ではありません。室町時代の前半と重なっています。

注意 × 南北朝時代が終わってから室町時代が始まった → ○ 前半と重なる

合言葉 「京都の北朝、吉野の南朝」

→ まとめ：幕府の力が弱まり、地方や民衆が力をのばす時代へ

3 室町幕府は、鎌倉幕府とどこがちがった？

このページのゴール 室町幕府という名前のわけと幕府のしくみ、守護が守護大名になったわけを言え、鎌倉幕府とくらべて説明できる

① 室町幕府ができる

1338年、足利尊氏は北朝から征夷大將軍に任命され、京都に幕府を開きました。3代將軍の足利義満が、京都の室町に御所（將軍の住まい）を建てて政治を行ったので、この幕府を室町幕府とよびます。

室町幕府＝京都に開かれた武士の政権 室町時代＝室町幕府があった時代

② 守護から守護大名へ

- ① 南北朝の争いで、全国の武士が二つに分かれて争う
- ② 幕府は、味方の武士を集めるため、守護に大きな権限（国内の武士をまとめる・荘園の年貢の半分を取り立てる）をあたえる
- ③ 守護が国内の武士を家来にし、国を自分の領地のように支配する

守護大名（しゅごだいみょう）＝権限を強め、国を自分の領地のように支配するようになった守護

③ 鎌倉幕府とくらべる

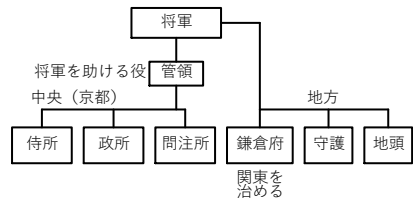


図 室町幕府のしくみ

	鎌倉幕府	室町幕府
幕府の場所	鎌倉	京都
将軍を助ける役	執権（北条氏）	<u>管領</u> （かんれい。細川氏など）
将軍を支えた人々	御恩と奉公で結ばれた御家人	有力な守護大名
地方の守護	国ごとに置き、軍事・警察	権限を強め、国を支配
関東	—	<u>鎌倉府</u> （かまくらふ）

注意 × 室町幕府の守護は、鎌倉幕府の守護と同じく、軍事・警察の役目だけだった → ○ 権限を強めて守護大名になり、国を支配した

合言葉 「鎌倉は執権、室町は管領」

→ まとめ：守護が国を支配し、幕府は守護大名に支えられていた

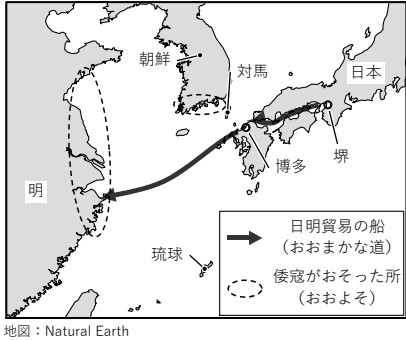
4 なぜ室町幕府は、明と貿易を始めた？

このページのゴール 倭寇・明・勘合・朝貢・日明貿易のつながりと、明との輸出品と輸入品を言える

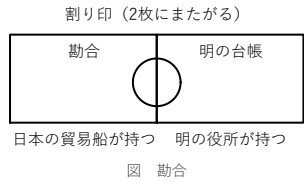
① 倭寇から日明貿易へ

⑩前半で学んだ元は、このころおとろえていました。

- ① 14世紀ごろ、**倭寇**（わこう。西日本の武士・商人・漁民などの一部の海賊）が、朝鮮半島や中国の沿岸をおそい、食料をうばったり人をさらったりする
- ② 1368年、漢民族が元を北へ追いやり、**明**（みん）を建てる
- ③ 明が日本に、倭寇の取りしまりを求める
- ④ 足利義満が倭寇を取りしまり、明と国交を結ぶ
- ⑤ 1404年、**日明貿易**（**勘合貿易**）を始める



② 勘合と朝貢



勘合（かんごう）＝正式な貿易船と倭寇を区別するため、正式な船に持たせた合い札。明の役所の台帳と照らし合わせ、字や印が合えば正式な船と認めた

日明貿易は、日本の王が明の皇帝に貢ぎ物をおくり、そのお返しに品物を受け取る**朝貢**（ちょうこう）の形でした。それでも貿易をしたのは、利益が大きく、幕府の財政を支えたからです。博多や堺の商人も貿易にかかわり、町が栄えました（7ページ）。

③ 明との輸出品・輸入品

	日本から明へ（輸出）	明から日本へ（輸入）
おもな品	刀剣・銅・硫黄・漆器など	銅銭（明銭） ・生糸・絹織物・陶磁器・書画など
つながり	朝鮮との貿易は5ページ。明銭は日本で広く使われました（6ページ）	

注意 × 勘合は、倭寇の船が持っていた証明書 → ○ 正式な貿易船が持ち、倭寇と区別するためのもの

合言葉 「勘合で、倭寇と正式な船を見分ける」

→ まとめ：貿易で品物や明銭が入り、商業がさかんになった

5 室町時代、朝鮮・琉球・蝦夷地とは、どのようにつながった？

このページのゴール 朝鮮国（李成桂・ハングル）と日朝貿易（宗氏・木綿）、琉球王国の中継貿易（尚氏・首里）、アイヌの人々の交易とコシャマインの戦いを言える

① 琉球王国の中継貿易

1429年、尚氏（しょうし）が沖縄島を統一して琉球王国を建て、首里（しゅり）を都にしました。

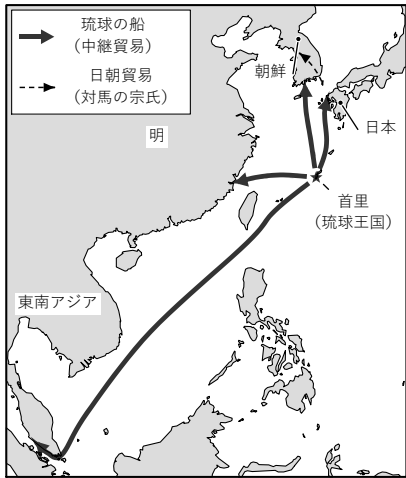
- ① 東南アジアのこしょうなどを仕入れる
- ② 明・日本・朝鮮へ運んで売る
- ③ 明の生糸や陶磁器、日本の刀なども、ほかの国へ運ぶ
- ④ 都の首里が栄える

中継貿易 = ある国から仕入れた品物を、別の国へ売る貿易



首里城の正殿
(沖縄県那覇市)
(2019年に焼ける前)
写真：Naokijp (CC BY-SA 4.0)。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

首里城は、琉球王国の王の城です。琉球は、中国・日本・東南アジアの文化を取り入れて、独自の文化を築きました。



地図：Natural Earth

② 朝鮮・琉球・アイヌをくらべる

	朝鮮国	琉球王国	アイヌ民族
だれが・いつ	1392年、 <u>李成桂</u> （りせいけい）が高麗をたおして建てる。のちに独自の文字 <u>ハングル</u> をつくる	1429年、尚氏が沖縄島を統一して建てる	蝦夷地（えぞち。今の北海道）に住み、狩りや漁をする
日本とのつながり	倭寇の取りしまりを求め、日本と貿易（ <u>日朝貿易</u> ）。対馬の <u>宗氏</u> （そうし）が仲立ち。輸入は <u>木綿</u> など	中継貿易で栄え、日本・中国・朝鮮・東南アジアを結ぶ	本州や樺太・大陸の人々と交易。本州の人々（ <u>和人</u> ）が蝦夷地の南部に移り住む。1457年、 <u>コシャマイン</u> を中心に和人と戦う

注意 × 朝鮮との貿易の仲立ちをしたのは、琉球王国 → ○ 対馬（今の長崎県）の宗氏

合言葉 「朝鮮は宗氏、琉球は中継」

→ まとめ：貿易で品物が行き来し、商業や都市が栄えた

6 室町時代、農業や商業はどのように発達した？

このページのゴール 農業・手工業・商業・運送・金融の発達（水車・商品作物・特産物・明銭・座・馬借・土倉と酒屋）を、鎌倉時代とくらべて言える

① 鎌倉時代とくらべて、何が変わった？

⑩前半の5ページで、二毛作・定期市・宋銭を学びました。室町時代には、これらがさらに広がりました。

	鎌倉時代	室町時代
二毛作	西日本が中心	各地に広がる
お金	宋銭	明銭（宋銭も使われた）
定期市	開かれた	開かれる回数が増える
さかんになったもの	（まだ少なかった）	水車・商品作物・各地の特産物・座・馬借・土倉と酒屋

② 産業のようす

	ようす
農業	牛や馬を使った耕作、 <u>水車</u> を使ったかんがい、たい肥などの肥料。麻・桑・藍・茶などの <u>商品作物</u> （売るための作物）を作る
手工業	絹織物・陶器・紙・刀など、各地で <u>特産物</u> （その土地の名産品）が作られる
運送・金融	<u>馬借</u> （ばしゃく）＝馬で物を運ぶ運送業者。 <u>土倉</u> （どそう）・ <u>酒屋</u> ＝お金を貸す高利貸し（酒屋は、酒を造って売りながらお金も貸した）

座＝商人や手工業者の同業者の団体。貴族や寺社に税を納めて保護を受け、営業を独占した

③ 品物とお金の流れ

- ① 村で、商品作物や特産物を作る
- ② 馬借が運ぶ
- ③ 定期市や町で売り、明銭で取り引きする
- ④ 商人や手工業者は座をつくる。お金を借りる人も増える

注意 ×二毛作は、室町時代に初めて始まった → ○鎌倉時代に西日本で広まり、室町時代に各地へ

合言葉 「運ぶ馬借、貸す土倉・酒屋、まとまる座」

→ まとめ：産業が発達し、民衆の生活が豊かになった

7 村や町の人々は、どうやって自分たちで治めた？

このページのゴール 惣と寄合、一揆のものと意味と土一揆、正長の土一揆、町衆・堺・博多の自治を言える

① 村の自治 ― 惣

惣（そう。惣村）＝農民が村ごとにまとまってつくった、自治の組織

惣では、**寄合**（よりあい。村の会議）を開いて村のおきて（村人どうしで決めた約束）を定め、用水路や森林の利用・管理を話し合いました。年貢をまとめて納めることもありました。

② 一揆と正長の土一揆

一揆＝もともとは、目的のために心をつにして団結すること（その集まり） **土一揆**＝農民などが団結して、借金の帳消し（**徳政**）を求めた一揆

- 1 1428年、近江（今の滋賀県）の馬借の行動がきっかけになる
- 2 近畿地方に広がる（**正長の土一揆**。しょうちょうのつちいっき）
- 3 農民などが土倉や酒屋をおそい、徳政を求める



正長の土一揆の碑文
(拓本。奈良県奈良市柳生)



京都の祇園祭
(『洛中洛外図屏風』の一部)

写真：黒田昇義『当尾と柳生の寺々』1943（パブリックドメイン）、絵：狩野永徳（著作権切れ）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

写真の左は、奈良県奈良市柳生（やぎゅう）の地蔵の岩に刻まれた碑文の**拓本**（石に刻まれた字を紙に写し取ったもの）です。このあたりの村々では借金がなくなったという意味の文字が刻まれていて、土一揆のあと、農民が刻んだといわれます。

③ 都市の自治

	ようす
京都	町衆 （ちょうしゅう。裕福な商工業者）が自治を行い、応仁の乱（8ページ）で中断した祇園祭（ぎおんまつり）を復活させた
堺・博多	堺（今の大阪府）・博多（今の福岡県）は貿易で栄え、有力な商人たちが自治を行った

注意 ×一揆とは、農民が武器を持って暴れること → ○ もとは目的のために団結すること

合言葉 「村は惣、話し合いは寄合」

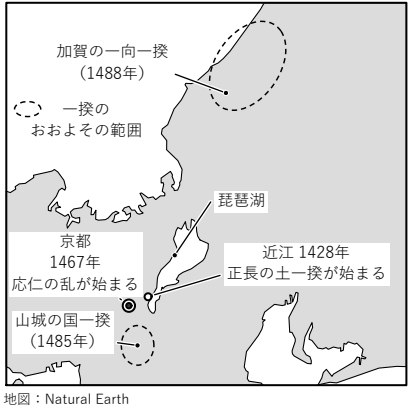
→ まとめ：民衆が団結し、村や町を自分たちで治めた

8 応仁の乱のあと、なぜ下の者が上の者に打ち勝つようになった？

このページのゴール 応仁の乱と、そのあとの下剋上・山城の国一揆・加賀の一向一揆を言える

① 応仁の乱

- ① 8代将軍足利義政（あしかがよしまさ）のあとつぎ問題などをめぐって、有力な守護大名の細川氏と山名氏が対立する
- ② 1467年、京都で戦いが始まる（応仁の乱。おうにんのらん）
- ③ 多くの守護大名が二つに分かれ、11年間戦う。京都は焼け野原になり、戦いは地方にも広がる
- ④ 幕府の力は弱まり、京都とその周りを支配するだけになる



② 下剋上と一揆

下剋上（げこくじょう）＝身分の下の方が、実力で上の者に打ち勝つ風潮。応仁の乱で幕府の力が弱まると、全国に広まった

一揆	年	場所	だれが	したこと
正長の土一揆	1428年	近江から近畿地方へ	農民など	土倉や酒屋をおそい、借金の帳消し（徳政）を求めた
山城の国一揆	1485年	山城（今の京都府南部）	武士と農民	守護大名の軍を追い出し、8年間自治を行った
加賀の一向一揆	1488年	加賀（今の石川県南部）	浄土真宗（一向宗）の信者	守護大名をたおし、約100年間自治を行った

正長の土一揆は、借金の帳消しを求めた一揆でした。これに対して、山城の国一揆と加賀の一向一揆は、守護大名をしりぞけて、自分たちで国を治めた一揆です。

注意 × 応仁の乱のあとも、幕府は全国を強く支配した → ○ 京都とその周りを支配するだけになった

合言葉 「下の者が上に打ち勝つ、下剋上」

→ まとめ：幕府の力が弱まり、下剋上の中で民衆の一揆が自治を行った

9 戦国大名は、それまでの大名と何が違った？

このページのゴール 戦国大名が自分の力で国を支配したことと、分国法・城下町など、守護大名とのちがいを説明できる

① 戦国大名とは

戦国大名 = 自分の力で国を支配した大名

守護大名の家来が実権をにぎった者も、守護大名が力をのばした者もあります。応仁の乱のあと、約100年間、各地の戦国大名が争った時代を**戦国時代**といいます。

② 守護大名とくらべる

	守護大名	戦国大名
力のもと	幕府から守護に任命され、その権限で国を支配	幕府の力にたよらず、自分の力で国を支配
国の決まり	幕府の決まりのもと	分国法を定めた
国づくり	—	城と城下町、用水路や堤防、鉱山

③ 戦国大名がしたこと

- 城を築き、**城下町**をつくって、家来や商工業者を集めた
- 分国法**（ぶんこくほう）＝領国（支配する国）の武士や民衆を取りしめるために定めた、独自の法。（例：ある戦国大名の分国法の要約）「けんかをした者は、理由にかかわらず両方とも罰する」「許可なく他国へ手紙を送ってはならない」
- 用水路や堤防を造って農業をさかんにし、鉱山を開発して、国を豊かにしようとした



城下町の跡
(福井県福井市 一乗谷)
写真：Suikotei (CC BY-SA 4.0)。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

注意 × 戦国大名は、どれも室町幕府に任命された守護大名だった → ○ 守護大名の家来が実権をにぎった者もいて、自分の力で国を支配した

合言葉 「自分の力で国を治める戦国大名」

→ まとめ：守護大名にかわり、自分の力で国を治める大名が現れた

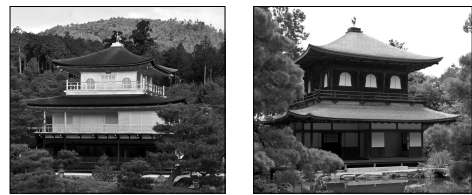
10 室町時代の文化は、何と何がとけ合った？

このページのゴール 室町文化の特色（武家と公家の文化がとけ合う・禅宗の影響）と、北山文化と東山文化のちがいを、将軍と建物で言える

⑩前半で学んだ鎌倉文化は、武士の気風に合った素朴で力強い文化で、⑨の国風文化は貴族の文化でした。室町時代には、武士と貴族の文化がとけ合った文化が生まれます。

室町文化＝武士（武家）の文化と公家（貴族）の文化がとけ合った文化。禅宗の影響も受け、民衆の間にも文化が広がった

① 北山文化 — 金閣と能



金閣（鹿苑寺）
（京都府京都市）
銀閣（慈照寺）
（京都府京都市）
写真：Nacaru（CC BY-SA 4.0）、Laitr Keiows（CC BY-SA 3.0）。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

金閣にみる、とけ合い 金閣の1階は、平安時代の貴族の住まいの様式（寝殿造。しんでんづくり）、いちばん上の3階は禅宗の寺の様式です。公家の文化と武家の文化がとけ合ったことを表しています。

能（能楽）＝猿楽や田楽をもとに、観阿弥（かんあみ）・世阿弥（ぜあみ）の親子が大成した、歌と舞による劇。義満が保護した

② 北山文化と東山文化をくらべる

	北山文化	東山文化
将軍	3代 足利義満	8代 足利義政
建物	金閣（鹿苑寺〈ろくおんじ〉という寺の中）	銀閣（慈照寺〈じしょうじ〉という寺の中）
つくり	1階は寝殿造、3階は禅宗の寺の様式。金ばくがはられている	2階建て。1階は書院造ふう、2階は禅宗の寺の様式。銀ははられていない
特色	はなやか	落ち着いて、質素
おもな芸術	能	書院造・水墨画・枯山水（11ページ）

注意 × 銀閣には、銀ばくがはられている → ○ はられていない（落ち着いた質素な建物）

合言葉 「金閣は義満、銀閣は義政」

→ まとめ：武家と公家の文化がとけ合う文化が生まれた

11 室町時代の文化は、どのように広がり、今につながっている？

このページのゴール 書院造・水墨画（雪舟）・枯山水と、民衆の文化（狂言・御伽草子・連歌・盆おどり）、文化が地方へ広がったわけ、今とのつながりを言える

① 東山文化の芸術



雪舟の水墨画
（『秋冬山水図』の秋景）
絵：雪舟（著作権切れ）、写真：lumoplank（CC0）。Wikimedia Commons
より、白黒にして切り取った



枯山水の庭
（京都府京都市）

書院造（しょいんづくり）＝たたみをしき、床の間・障子・ふすまのある建築。今の和室のもと

水墨画＝墨のこい・うすいで自然などをえがく絵。**雪舟**（せっしゅう）が明にわたって学び、日本の水墨画を大成した

枯山水（かれさんすい）＝水を使わず、石と砂で山や水の流れを表した庭

② 民衆の文化と、文化の広がり

	内容
狂言	能の合間に演じられた、民衆の生活をえがいた喜劇
御伽草子	『一寸法師』『浦島太郎』などの絵入りの物語（おとぎぞうし）
連歌	和歌の上の句と下の句を、別の人が次々によみつないでいく（れんが）
盆おどり	民衆の間に広まった踊り

- ① 応仁の乱で、京都が荒れる
- ② 公家や僧が、地方の戦国大名をたよって移り住む
- ③ 都の文化が、地方にも広がる

③ 今に受けつがれる室町の文化

書院造	茶の湯	生け花	能・狂言	御伽草子
和室	茶道	華道	今も演じられている	昔話として親しまれている

注意 × 狂言は、貴族の生活をえがいた悲しい劇 → ○ 能の合間に演じられた、民衆の生活をえがいた喜劇

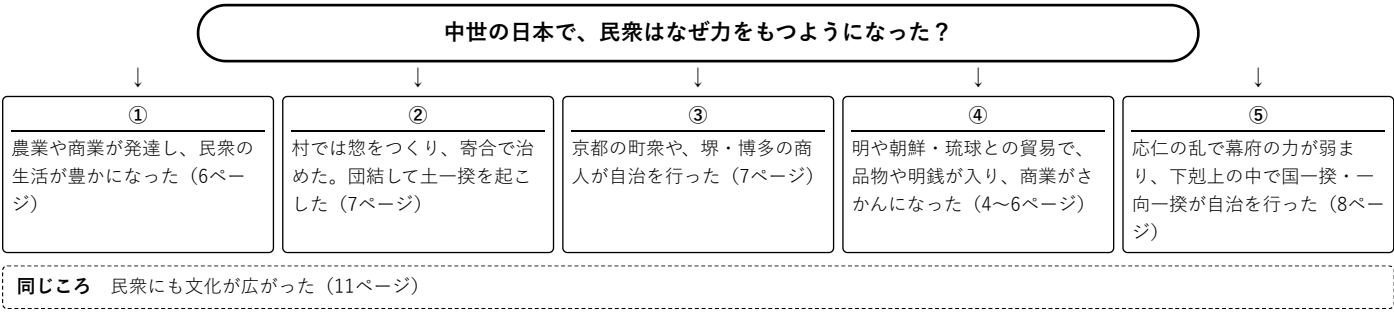
合言葉 「水墨画は雪舟、和室のものは書院造」

→ まとめ：文化が民衆や地方にも広がった

12 中世の日本で、民衆はなぜ力をもつようになった？

このページのゴール 2～11ページを、クラゲチャートでつないで、1ページの問いに答えられる

① クラゲチャート



② 年表

年	できごと	年	できごと
1333年	鎌倉幕府がほろびる	1428年	正長の土一揆
1334年	建武の新政	1429年	琉球王国が成立する
1338年	足利尊氏が征夷大將軍になる	1457年	コシヤミンの戦い
1368年	明が建国される	1467年	応仁の乱が始まる
1392年	南北朝が統一される・朝鮮国が建国される	1485年	山城の国一揆
1404年	日明貿易が始まる	1488年	加賀の一向一揆

③ 問いの答えの例

農業や商業が発達して民衆の生活が豊かになり、村では惣をつくって寄合で治め、団結して土一揆を起こしました。都市では町衆や商人が自治を行いました。応仁の乱で幕府の力が弱まると、下剋上の風潮の中で、一揆が守護大名を追い出して自治を行うこともありました。

④ 答えを書くときのコツ

- ① クラゲの足（理由）を①～⑤の順に読み、2～11ページのどのことを思い出す
- ② 近い理由をまとめる（①と④は商業、②と③は自治、⑤は幕府の力が弱まったこと）
- ③ できごとを順に書き、「だから民衆は力をもった」とむすぶ

中世全体：武士が政治を動かす時代（前半）に、民衆も力をつけていった（後半）

確認問題① 鎌倉幕府の滅亡と朝廷の分裂・室町幕府と守護大名・明との関係

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 鎌倉幕府の滅亡と朝廷の分裂について答えなさい。【1・2ページ】

- (1) 鎌倉幕府をたおす計画を立て、天皇中心の政治を取りもどそうとした天皇はだれですか。_____
- (2) (1)の天皇に味方した、もとは鎌倉幕府の有力な御家人で、のちに室町幕府を開いた人物はだれですか。_____
- (3) (1)の天皇に味方して、鎌倉幕府をほろぼした武士として正しいものを選びなさい。
ア 北条時宗 イ 平清盛 ウ 源義経 エ 楠木正成 _____
- (4) 鎌倉幕府がほろびたのは何年ですか。_____
- (5) (1)の天皇が始めた、天皇中心の新しい政治を何といいますか。_____
- (6) (2)の人物が兵を挙げ、新しい天皇を立ててできた朝廷を何といいますか。_____
- (7) (1)の天皇のがれて開いた朝廷を（A）、のがれた先の地名を（B）といいます。（A）（B）にあてはまる語を書きなさい。A（_____）B（_____）
- (8) 2つの朝廷が争った時代を何といいますか。また、およそ何年間争いましたか。_____
- (9) ○か×を書きなさい。(8)の時代は、室町時代の前半と重なっている。_____

2 室町幕府と守護について答えなさい。【3ページ】

- (1) 室町幕府とよばれるわけとして正しいものを選びなさい。
ア 3代将軍が室町に御所を建てて政治を行ったから イ 初代将軍が室町という町で生まれたから
ウ 天皇が室町に朝廷を開いたから エ 関東を治める機関が室町に置かれたから _____
- (2) 1392年に2つの朝廷を1つにまとめた、3代将軍はだれですか。_____
- (3) 朝廷が二つに分かれて争う中で、守護が大きな力をもつようになった流れを、古い順に並べなさい。
ア 守護が国内の武士を家来にし、国を自分の領地のように支配する イ 幕府が守護に、国内の武士をまとめる権限などをあたえる
ウ 全国の武士が二つに分かれて争う _____
- (4) 室町幕府が、関東を治めるために置いた機関を何といいますか。_____
- (5) 鎌倉幕府と室町幕府をくらべた次の表の（A）～（C）にあてはまる語を書きなさい。

	鎌倉幕府	室町幕府
幕府の場所	(A)	(B)
将軍を助けた役	(C) (北条氏がついた)	有力な守護大名がついた

- A（_____）B（_____）C（_____）
- (6) 室町幕府の守護大名とは、どのような守護のことですか。「権限」「国」「支配」の3つの語を使って書きなさい。

3 明との関係について答えなさい。【4ページ】

- (1) 元を北へ追いやって明を建てた民族は何ですか。また、明が建国されたのは何年ですか。_____
- (2) 日明貿易で、正式な貿易船に持たせ、明の役所の台帳と照らし合わせた合い札を何といいますか。_____
- (3) 日本の王が明の皇帝に貢ぎ物をおくり、そのお返しに品物を受け取る貿易の形を何といいますか。_____
- (4) 日明貿易が始まったのは何年ですか。_____
- (5) 日本が明から輸入した品として正しいものを選びなさい。
ア 生糸 イ 硫黄 ウ 刀剣 エ 銅 _____
- (6) 日本が明から輸入し、当時の日本で広く使われた錢を何といいますか。_____
- (7) 日明貿易で、(2)のものを正式な貿易船に持たせたのはなぜですか。「倭寇」「正式な貿易船」「区別」の3つの語を使って書きなさい。

- (8) 室町幕府が、明に貢ぎ物をおくる形をとってまで貿易をしたわけとして正しいものを選びなさい。
ア 明の大軍が日本に攻めてくるのを防ぐため イ 日本の国内の戦いをなくし、国をまとめるため
ウ 朝鮮から、明と貿易をするように頼まれたから エ 貿易の利益が大きく、幕府の財政を支えたから _____

確認問題② 東アジアの国々と蝦夷地・産業の発達と民衆の自治・地図で見る室町時代

4 東アジアの国々と蝦夷地について答えなさい。【5ページ】

- (1) 高麗をたおして朝鮮国を建てた人物はだれですか。 _____
- (2) 朝鮮で作られた、独自の文字を何といいますか。 _____
- (3) 対馬で、日本と朝鮮の間の貿易や外交の仲立ちをした一族は何氏ですか。 _____
- (4) 日本が朝鮮からおもに輸入した品は何ですか。 _____
- (5) 尚氏が沖縄島を統一して建てた国の名と、その都の名を書きなさい。 _____
- (6) (5)の国が、ある国から仕入れた品物を別の国へ売って栄えた貿易を何といいますか。 _____
- (7) 蝦夷地に住むアイヌの人々が、和人の圧迫に対して戦いを起こしたときの首長はだれですか。 _____
- (8) 次の表の (A) ～ (C) にあてはまる年を書きなさい。

	朝鮮半島	沖縄島	蝦夷地
できごと	高麗がたおされ、国が建てられる	尚氏が統一して、国を建てる	アイヌの人々が和人と戦う
年	(A) 年	(B) 年	(C) 年

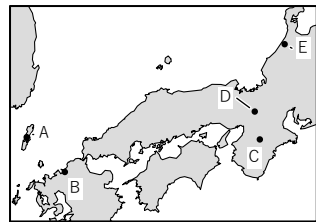
A (_____) B (_____) C (_____)

5 産業の発達と民衆の自治について答えなさい。【6・7ページ】

- (1) 田畑に水を引くために使われるようになった、水の力を利用する道具を何といいますか。 _____
- (2) 麻・桑・藍・茶など、売るために作られた作物を何といいますか。 _____
- (3) 馬を使って物を運んだ運送業者を何といいますか。 _____
- (4) 商人や手工業者がつくった、貴族や寺社に税を納めて営業を独占した同業者の団体を何といいますか。 _____
- (5) 室町時代のようにして正しいものを選びなさい。
ア たい肥などの肥料が使われた イ 取り引きに宋銭だけが使われた
ウ 定期市が開かれる回数が減った エ 農業で牛や馬が使われなくなった _____
- (6) 農民が村ごとにまとまってつくった、自治の組織を何といいますか。 _____
- (7) (6)の組織で開かれた、村のおきてなどを話し合う会議を何といいますか。 _____
- (8) 京都で自治を行った、裕福な商工業者を何といいますか。 _____
- (9) 貿易で栄え、有力な商人たちが自治を行った、今の大阪府の都市を何といいますか。 _____
- (10) 「一揆」は、もともとどのような意味の言葉ですか。正しいものを選びなさい。
ア 農民が武器を持って暴れること イ 目的のために心を一つにして団結すること
ウ 借金の返済を求めること エ 年貢を納めること _____
- (11) 1428年に近江（今の滋賀県）で起こり、近畿地方に広がった、借金の帳消しを求める一揆を選びなさい。
ア 山城の国一揆 イ 正長の土一揆 ウ 加賀の一向一揆 エ 応仁の乱 _____

6 地図で見る室町時代について答えなさい。【2・4・5・7・8ページ】

次の (1)～(5) にあてはまる所を、地図の A～E から選び、記号で書きなさい。



地図：Natural Earth

- (1) 天皇がのがれて、もう一つの朝廷を開いた所 _____
- (2) 幕府があり、応仁の乱が始まった所 _____
- (3) 朝鮮との貿易の仲立ちをした一族がいた所 _____
- (4) 浄土真宗（一向宗）の信者たちが、約100年間自治を行った所 _____
- (5) 日明貿易で栄え、有力な商人たちが自治を行った九州の都市 _____

確認問題③ 応仁の乱とそのあとの社会・室町文化・まとめ

7 応仁の乱とそのあとの社会について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) あとつぎ問題などが応仁の乱のきっかけの一つになった、8代将軍はだれですか。 _____
- (2) 応仁の乱で対立した、2つの有力な守護大名として正しい組み合わせを選びなさい。
ア 北条氏と足利氏 イ 宗氏と尚氏 ウ 細川氏と山名氏 エ 細川氏と北条氏 _____
- (3) 応仁の乱が始まったのは何年ですか。また、何年間続きましたか。 _____
- (4) 応仁の乱のあと全国に広まった、身分の下の方が実力で上の者に打ち勝つ風潮を何といいますか。 _____
- (5) 次の説明A・Bにあてはまる一揆を、ア・イからそれぞれ選びなさい。
A 武士と農民が守護大名の軍を追い出し、8年間自治を行った B 浄土真宗の信者たちが守護大名をたおし、約100年間自治を行った
ア 山城の国一揆 イ 加賀の一向一揆 A () B ()
- (6) 自分の力で国を支配するようになった大名を何といいますか。 _____
- (7) (6)の大名が、自分の領国の武士や民衆を取りしめるために定めた独自の法を何といいますか。 _____
- (8) (6)の大名が、家来や商工業者を集めるために、城のまわりにつくった町を何といいますか。 _____
- (9) 守護大名と(6)の大名のちがいを正しいものを選びなさい。
ア (6)の大名は、幕府から任命された守護として、その権限で国を支配した
イ (6)の大名は、幕府の力にたよらず、自分の力で国を支配した
ウ 守護大名は、幕府の力にたよらず、自分の力で国を支配した
エ 守護大名は、幕府と関係なく、京都の政治を行った _____

8 室町文化について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 3代将軍のころの、はなやかな文化を何といいますか。 _____
- (2) 8代将軍のころの、落ち着いた質素な文化を何といいますか。 _____
- (3) 次の表の(A)～(D)にあてはまる語を書きなさい。

	金閣のころ	銀閣のころ
将軍	(A)	(B)
寺の名前	(C)	(D)

- A () B () C () D ()
- (4) 今の和室のもとになった、室町時代の建築様式のようにして正しいものを選びなさい。
ア 床板だけで、たたみをしかない部屋 イ ふすまや障子がなく、風通しのよい建物
ウ たたみをしき、床の間・障子・ふすまがある エ 柱と屋根だけで、かべのない建物 _____
- (5) 水を使わず、石と砂で山や水の流れを表した庭を何といいますか。 _____
- (6) 猿楽や田楽をもとにして生まれ、3代将軍が保護した、歌と舞による劇を何といいますか。 _____
- (7) (6)の劇を大成した親子の名前を書きなさい。 _____
- (8) 明にわたって学び、日本の水墨画を大成した人物はだれですか。 _____
- (9) 次のA～Cにあてはまるものを、ア～ウからそれぞれ選びなさい。
A 民衆の生活をえがいた喜劇 B 『一寸法師』『浦島太郎』などの絵入りの物語 C 和歌の上の句と下の句を、別の人が次々によみつないでいくもの
ア 連歌 イ 狂言 ウ 御伽草子 A () B () C ()
- (10) 都の文化が地方にも広がったわけとして正しいものを選びなさい。
ア 明から多くの僧が来て、地方に寺を建てたから イ 幕府が全国に文化を教える役所を置いたから
ウ 地方の民衆が、京都に集まって住むようになったから エ 応仁の乱で、公家や僧が地方の大名のもとへ移ったから _____
- (11) 今の華道のもとになったものを(A)、民衆の間に広まった踊りを(B)といいます。(A)(B)にあてはまる語を書きなさい。A () B ()
- (12) 室町文化の特色として正しいものを選びなさい。
ア 貴族を中心に、日本の風土に合った文化 イ 武家と公家の文化がとけ合い、禅宗の影響も受けた文化
ウ 武士の気風に合った、素朴で力強い文化 エ 武家の文化だけが栄えた文化 _____

9 まとめについて答えなさい。【12ページ】

- (1) 次の流れの(A)(B)にあてはまる語を書きなさい。
問い：中世の日本で、民衆はなぜ力をもつようになった？
農業や商業が発達し、民衆の生活が豊かになった 村では(A)をつくり、団結して土一揆を起こした 京都の(B)や堺・博多の商人が自治を行った A () B ()
- (2) 次のア～オを、古い順に並べなさい。
ア 応仁の乱が始まる イ 京都に幕府が開かれる ウ 2つの朝廷が1つにまとまる エ 天皇中心の新しい政治が始まる オ 日明貿易が始まる
- (3) (2)のイのできごととは何年ですか。 _____
- (4) 中世に民衆が力をもつようになったのはなぜですか。「農業」「商業」「自治」を使って書きなさい。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

鎌倉幕府の滅亡と南北朝（1・2ページ）

中世＝鎌倉時代から室町時代（戦国時代をふくむ）まで。1333年、後醍醐天皇が足利尊氏（もとは鎌倉幕府の有力な御家人）・楠木正成らを味方にして鎌倉幕府をほろぼす→1334年、建武の新政（天皇中心の政治）→公家を重んじたため武士の不満が高まり、2年ほどでくずれる。尊氏が京都に北朝を立てる、後醍醐天皇は吉野で南朝→約60年間争う南北朝時代（室町時代の前半と重なる）。1392年、足利義満が南北朝を統一。

室町幕府と守護大名（3ページ）

1338年、足利尊氏が征夷大將軍になり京都に幕府を開く。3代將軍義満が京都の室町に御所を建てたので室町幕府・室町時代。南北朝の争いで、幕府は味方を集めるため守護に大きな権限を

明・朝鮮・琉球・アイヌとの交流（4・5ページ）

倭寇（西日本の武士・商人・漁民の一部）→1368年、明が建国され、取りしまりを求める→足利義満が取りしまり、1404年に日明貿易（勘合貿易）開始。勘合＝正式な貿易船と倭寇を区別する合い札。朝貢の形。輸出＝刀剣・銅・硫黄・漆器など、輸入＝銅銭（明銭）・生糸・絹織物・陶磁器など。

	朝鮮国	琉球王国	アイヌ民族
いつ・だれが	1392年、李成桂。のちにハングル	1429年、尚氏。都は首里	蝦夷地に住む
日本とのつながり	対馬の宗氏が仲立ち（日朝貿易）。輸入は木綿	中継貿易で栄える	和人と交易。1457年、コシャマインが和人と戦う

産業の発達・惣と一揆（6・7ページ）

	鎌倉時代	室町時代
二毛作	西日本が中心	各地に広がる
お金	宋銭	明銭（宋銭も使われた）
さかんになったもの	（まだ少なかった）	水車・商品作物・特産物・座・馬借・土倉と酒屋

座＝同業者の団体（営業を独占）。馬借＝馬で運ぶ運送業者。土倉・酒屋＝お金を貸す高利貸し。惣（惣村）＝村の自治の組織、寄合で村のおきてなどを話し合う。町衆（京都）、堺・博多（貿易で栄え、商人が自治）。一揆＝もとは団結すること。土一揆＝借金の帳消し（徳政）を求める→1428年、正長の土一揆（近江の馬借がきっかけ）。

応仁の乱と戦国大名（8・9ページ）

1467年、足利義政のあとつぎ問題などで細川氏と山名氏が対立し応仁の乱（11年間、京都が戦場）→下剋上の風潮が広がる→1485年山城の国一揆、1488年加賀の一向一揆→戦国大名（自分

年表（12ページ）

年	できごと	年	できごと
1333年	鎌倉幕府がほろびる	1428年	正長の土一揆
1334年	建武の新政	1429年	琉球王国が成立する
1338年	足利尊氏が征夷大將軍になる	1457年	コシャマインの戦い
1368年	明が建国される	1467年	応仁の乱が始まる
1392年	南北朝が統一される・朝鮮国が建国される	1485年	山城の国一揆
1404年	日明貿易が始まる	1488年	加賀の一向一揆

合言葉

京都の北朝、吉野の南朝／鎌倉は執権、室町は管領／勘合で、倭寇と正式な船を見分ける／朝鮮は宗氏、琉球は中継／運ぶ馬借、貸す土倉・酒屋、まとまる座／村は惣、話し合いは寄合／下の者が上に打ち勝つ、下剋上／自分の力で国を治める戦国大名／金閣は義満、銀閣は義政／水墨画は雪舟、和室のものは書院造

あたえる→守護が国を自分の領地のように支配する守護大名に。京都に侍所・政所・問注所、地方に鎌倉府（関東）・守護・地頭。

	鎌倉幕府	室町幕府
幕府の場所	鎌倉	京都
將軍を助ける役	執権（北条氏）	管領（細川氏など）
將軍を支えた人々	御恩と奉公で結ばれた御家人	有力な守護大名
地方の守護	国ごとに置き、軍事・警察	権限を強め、国を支配
関東	—	鎌倉府

の力で国を支配）が各地に現れ戦国時代へ。守護大名は幕府の権限で国を支配、戦国大名は自分の力で支配し、城下町をつくり、分国法を定める。

室町文化（10・11ページ）

	北山文化	東山文化
將軍	3代 足利義満	8代 足利義政
建物	金閣（鹿苑寺）	銀閣（慈照寺）
特色	はなやか	落ち着いた質素
芸術	能（観阿弥・世阿弥）	書院造・水墨画（雪舟）・枯山水

室町文化＝武家と公家の文化がとけ合った文化（禅宗の影響）。民衆の文化＝狂言・御伽草子・連歌・盆おどり。応仁の乱で公家・僧が地方へ移り住む→都の文化が地方に広がる。今に受けつがれる：和室・茶道・華道・能・狂言。

確認問題の答えと解説

1【1・2ページ】

- (1) 後醍醐天皇 (2) 足利尊氏
- (3) エ (4) 1333年
- (5) 建武の新政 (6) 北朝
- (7) A 南朝 B 吉野
- (8) 南北朝時代・約60年間
- (9) ○

後醍醐天皇は足利尊氏・楠木正成らを味方にして1333年に鎌倉幕府をほろぼし、1334年に建武の新政を始めました（北条時宗は元寇のときの執権、源義経は源平の争乱の武将、平清盛は平氏の人です）。尊氏が京都に北朝を立てると、後醍醐天皇は吉野で南朝を開き、約60年間争いました。南北朝時代は、室町時代の前半と重なっています。【1・2】

2【3ページ】

- (1) ア (2) 足利義満
- (3) ウ → イ → ア
- (4) 鎌倉府
- (5) A 鎌倉 B 京都 C 執権
- (6) (例) 南北朝の動乱の中で権限を強め、国を自分の領地のように支配するようになった守護。

3代将軍の義満が京都の室町に御所を建てて政治を行ったので、室町幕府とよびます。南北朝の争いで、全国の武士が二つに分かれて争う→幕府が守護に大きな権限をあたえる→守護が国を自分の領地のように支配する、の順です。入れる語：「権限」「国」「支配」。鎌倉幕府は鎌倉に置かれ、将軍を助けたのは北条氏がついた執権です。【3】

3【4ページ】

- (1) 漢民族・1368年
- (2) 勘合 (3) 朝貢
- (4) 1404年 (5) ア
- (6) 銅銭（明銭）
- (7) (例) 正式な貿易船と倭寇を区別するため。
- (8) エ

明は1368年に漢民族が建て、倭寇の取りしまりを求めました。足利義満が取りしまり、1404年に日明貿易を始めました。勘合は、台帳と照らし合わせて正式な貿易船と倭寇を区別する合い札です。明への輸出は刀剣・銅・硫黄、明からの輸入は銅銭（明銭）・生糸など。朝貢の形でしたが、利益が大きく幕府の財政を支えました。入れる語：「倭寇」「正式な貿易船」「区別」。【4】

4【5ページ】

- (1) 李成桂 (2) ハングル
- (3) 宗氏 (4) 木綿
- (5) 琉球王国・首里
- (6) 中継貿易
- (7) コシャマイン
- (8) A 1392 B 1429 C 1457

李成桂が1392年に建てた朝鮮国とは、対馬の宗氏が仲立ちして貿易し、木綿を輸入しました。尚氏は1429年に琉球王国を建て、中継貿易で栄えました。蝦夷地のアイヌの人々は、1457年にコシャマインを中心に和人と戦いました。【5】

5【6・7ページ】

- (1) 水車 (2) 商品作物
- (3) 馬借 (4) 座
- (5) ア (6) 惣（惣村）
- (7) 寄合 (8) 町衆
- (9) 堺 (10) イ
- (11) イ

室町時代には、たい肥などの肥料が使われました（宋銭だけではなく明銭も使われ、定期市は回数が増えました）。農民は惣をつくり、寄合で自治を行いました。京都では町衆、堺・博多では商人が自治を行いました。一揆はもとは団結することで、1428年に近江から近畿地方に広がったのが正長の土一揆です（山城の国一揆と加賀の一向一揆は1485年・1488年）。【6・7】

6【2・4・5・7・8ページ】

- (1) C (2) D (3) A
(4) E (5) B

Cは吉野（南朝）、Dは京都（室町幕府があり、応仁の乱が始まった所）、Aは対馬（宗氏が朝鮮との貿易を仲立ち）、Eは加賀（今の石川県。一向宗の信者が約100年自治）、Bは博多（日明貿易で栄え、商人が自治）です。【2・4・5・7・8】

7【8・9ページ】

- (1) 足利義政 (2) ウ
(3) 1467年・11年間
(4) 下剋上
(5) A ア B イ
(6) 戦国大名 (7) 分国法
(8) 城下町 (9) イ

8代将軍義政のあとつぎ問題などで細川氏と山名氏が対立し、1467年から11年間応仁の乱が続きました。そのあと下剋上が広まり、山城の国一揆（武士と農民が8年間自治）・加賀の一向一揆（約100年間自治）が起こりました。戦国大名は、幕府にたよらず自分の力で国を支配し、城下町をつくり、分国法を定めました。【8・9】

8【10・11ページ】

- (1) 北山文化 (2) 東山文化
(3) A 足利義満 B 足利義政 C 鹿苑寺 D 慈照寺
(4) ウ (5) 枯山水
(6) 能（能楽）(7) 観阿弥・世阿弥
(8) 雪舟 (9) A イ B ウ C ア
(10) エ
(11) A 生け花 B 盆おどり (12) イ
(12) 室町文化は、武家（武士）と公家（貴族）の文化がとけ合い、禅宗の影響も受けた（金閣の1階は寝殿造、3階は禅宗の寺の様式）。アは⑨の国風文化、ウは鎌倉文化で、エは公家の文化もとけ合ったので誤りです。【10】
義満のころの北山文化は金閣（鹿苑寺）と能、義政のころの東山文化は銀閣（慈照寺）・書院造・水墨画・枯山水が中心で、民衆の間には狂言・御伽草子・連歌・盆おどりが広まりました。応仁の乱で京都が荒れ、公家や僧が地方の大名をたよって移り住んだので、都の文化が地方にも広がりました。【10・11】

9【12ページ】

- (1) A 惣 B 町衆
(2) エ → イ → ウ → オ → ア
(3) 1338年
(4) （例）農業や商業が発達して民衆の生活が豊かになり、村や町で自治を行うようになったから。

建武の新政（1334）→足利尊氏が幕府を開く（1338）→南北朝の統一（1392）→日明貿易の開始（1404）→応仁の乱（1467）の順です。入れる語：「農業」「商業」「自治」。
【12】